

編集後記

- ◇ 本誌155号の特集には、昨年10月31日にオンラインで開催した「ジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の普及に関する情報交換会」での講演内容について講師の方から寄稿いただいた。ジャガイモシストセンチュウ（Gr）とジャガイモシロシストセンチュウ（Gp）対策としては、いずれも抵抗性品種の導入が重要であるが、特にGrについては、抵抗性品種の栽培が土壌中のGrをふ化させて死滅させる「攻撃的なツール」であることを十分に周知し、関係者の理解を得ることが必要ではないだろうか。
- ◇ サツマイモでは、12月に開催した第4回の基腐病に関する情報交換会の概況をトピックスに収録している。令和4年産では南九州での発生が前年より大きく減少しており、その要因としては梅雨が短く、降雨量が少なかったこともあるが、生産現場で早期収穫や防除の徹底、作型の早期化等に熱心に取り組んだ成果とみられる。病害の発生は全国で報告されていることから、気を抜くことなく対策を継続する必要がある。
- ◇ 2月も半ばを過ぎ、三寒四温の繰返しに春が間近いのを感じる。我が家の小さな菜園でも、寒さを乗り切ったノラボウ菜（伝統野菜の西洋アブラナ）がぐんぐんと成長。集めた落ち葉と米ぬかで発酵させた堆肥を鋤き込み、ジャガイモの種芋の植付準備を進めている。今年は、きたかむい、十勝こがね、キタアカリ、アンデス赤、男爵薯、メークインをチョイス。近年ではホームセンターなどで様々な品種の種芋を入手できるようになったのはありがたいが、肥料の価格をみて直近の資材高騰の厳しさを実感した。
- ◇ 先日、振興会に宮崎の小学校の教諭の方から、日本いも類研究会のHPに掲載された「おいもの教材」について電話があった。これまで2年生の教材として印刷して利用してきたが、継続しても問題ないかとのこと。20年ほど前に振興会が小学生を対象に作成した「ジャガイモ・サツマイモを育てよう」という小冊子である。教師用の「栽培観察授業指導教本」もセットされており、現在でも十分に使える内容となっている。このような公開資料をメンテすることにも、継続的に取り組んでいきたい。

いも類振興情報 第155号

2023(令和5)年4月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社